

研究の経過と概要

東山梨教育協議会 平和・人権教育と国際連帯部会

1 報告書ができるまでの具体的経過について

研究主題 「平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして」

- 研究の具体的内容
- ① 一人一実践の報告
 - ② 授業研究
 - ③ 臨地研修による学習
 - ④ 県教研環流報告

2014年 研究の経過と計画（敬称略）

回	研究日	内 容
1	5月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織作り ・ 研究テーマ及び研究内容の決定
2	5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画作成 ・ 春季教研環流報告 <p>【資料提供】 大藤小 高添 勉教頭（国際連帯）尖閣列島問題 地政学及び中国の覇権主義的な考え，韓国・中国問題と在外日本人</p>
3	6月 4日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な年間計画の確認 <p>【実践報告】 加納岩小 中村 勝（人権）外国籍児童の転入に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季学習会の計画
4	8月 4日	<p>【夏季学習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統一授業研に向けての授業案検討・資料検討 大和小 田邊博幸 ○ 臨地研修 「勝沼授産園」施設見学 学習会・山崎俊二理事長 (甲州市勝沼町小佐手633-1)
5	8月29日	<p>【授業研究】 大和小 田邊博幸 （人権）人権について考えてみよう</p>
6	10月1日	<p>【実践報告】 塩山南小 三森公仁（人権）いろいろな人たち</p> <p>【資料提供】 大藤小 高添 勉教頭 (国際連帯) イスラム教とは ～経験からのイスラム～</p>

7	11月26日	【実践報告】 日下部小 山宮由紀 ○ 秋季教研環流報告
8	1月14日	【実践報告】 塩山南小 甘利志賀峰 ○ 指導案検討 塩山北小 檜垣貴子
9	2月4日	【授業研究】 塩山北小 檜垣貴子
10	2月18日	○ 冬季教研 ・ 研究のまとめ

2 今次地区教研で論じられた内容と今後の課題について

- ・ 実践報告や学習会においては、様々な視点からの実践や情報を聞くことができ、今後の取り組みの参考となった。一実践は、人権教育についてのレポートが中心になっているが、国際連帯に関わる資料も提供していただき、研究の広がりがあった。今後も平和・人権・国際連帯の立場から話し合いを深めていきたい。
- ・ 授業研究は、「人権について考えてみよう」という題材で、福島原発事故から生じた人権問題について、人権作文をもとに考えていった。5年生の子ども達はこの授業を通して、一人一人が安全に、健康に、自由に、幸せに生きる権利について知り、これから自分たちができる活動について考えを深めることができた。
- ・ 夏休みに行われた臨地研修は、勝沼授産園の山崎理事長から、「子どもの貧困対策の推進」に関わってのお話をうかがった。その中で、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備することの重要性を認識した。また、人権教育への取り組み方についても、題材の選定、家族の絆、相互扶助、歴史的産物、憲法や諸権利等からその切り口を探ることをご示唆いただいた。授産園内の見学では、そこで働いている方々の様子を見て回らせていただき、改めて一人一人の生きる尊さを肌で感じることができた。夏季休業中だからこその貴重な研修となった。
- ・ 戦争経験者が少なくなって来た今、戦争や平和について考えさせたい時、直接お話を聞ける体験者からの「語り」を今後どのように残していけばよいか問題となる。部会としてもできることは考えていきたい。

3 報告書作成参加者、共同研究者について

山梨支会	教諭	中村 勝	山宮 由紀
甲州支会	教頭	高添 勉	
	教諭	三森 公仁	甘利志賀峰 檜垣 貴子 田邊 博幸

第5学年 道徳学習指導案

大和小学校 田 邊 博 幸

- 1 主題名 「人権について考えてみよう」4－(2) 公正・公平・正義
- 2 資料名 (蓬田 怜奈作 「聞いてください、私の思い」
第32回全国中学生人権作文コンテスト優秀作品より)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

いじめや不登校、児童虐待や福島原発事故に起因した差別など、昨今の児童を取り巻く環境については実に様々な問題や課題が表面化してきている。こうした状況を踏まえよりよい社会を実現していくためには、正義を愛する心が欠かせない。また、不正や不公平を許さない断固とした気持ちを持ち、多くの人が力を合わせ積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。

学習指導要領第3章、道徳の第5学年および第6学年の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(2)に「だれに対しても差別をすることや偏見を持つことなく公正・公平にし、正義の実現に努める」とある。学習指導要領において公正・公平にすることは、「私心にとらわれずだれにも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避け、社会的な平等が図られるようにふるまうこと」とされている。このような公正・公平な態度を育てていくことは、よりよい社会を実現していく上でとても大切であり、社会正義を身につけるためにも必要なものと考えられる。自分の利害や感情に左右されることなく、だれに対しても公正・公平に接すること、みんなのことを考え行動することが、社会全体の幸せにつながるという価値に気づかせたい。

(2) ねらいにかかわる児童の実態

男子6名。女子3名の学級である。

児童の多くが公正・公平・正義といった道徳的価値の大切さについては認識しているものの、自分の利害に直接関係してくるケースになると自分の事や感情を優先してしまい、相手の立場や思いを考えずに行動し、相手の心身を傷つけてしまう場面があった。

4月から上級生となり学級内での活動は勿論、委員会・クラブなどといった児童会活動や学校行事を通じて、よりよい学級や学校を自らの手で築き上げていくことの大切さについては認識はしているものの、公正・公平・正義を意識し具体的な取り組みを考え活動できている児童は全体的に少なく、この点に関しては個人差が大きいと感じている。

人権に関わる部分の学習についてはこれまで、道徳の学習(子どもの人権・いじめ問題)を中心に扱ってきた。人権という言葉自体は多くの児童が知っているものの、その意味や人権を守るための具体策という点では、全体的に理解度が低く曖昧な部分が

多い。本時の学習では随所に「人権」という言葉が登場するが、5年生にとっては難解な部分（人権・差別・偏見とは）が多く、言葉の意味や内容を理解した上で本時の学習に繋げていきたいと考える。

また、今回授業で扱う東日本大震災については、言葉自体は見聞したことがあると多くの児童が回答したが、「いつ・どこで・震災後について」という点にふれ回答した児童は少なかった。その背景として震災当時1年生だったことや震災から3年余りが経過したこと、さらに昨今震災関連のニュースや話題が社会や学校（学習）で取り上げられる機会が減ったことが考えられる。学習内容や作者（蓬田さん）のおかれている背景について深く理解するために、読み物資料だけでは知ることができない内容（具体的な震災状況・福島県大熊町・原発事故・原発事故による避難等）についても事前にふれ、本時の学習に繋げていきたいと考える。

上記した児童の実態を踏まえ、よりよい社会（学級・学校）を実現するために不可欠な公正・公平・正義といった道徳的価値を再認識すること、また、そのための具体的方策を見出し自ら実践していくことは、本学級の児童にとって大変意義があると思われる。

こうした心情や実践態度を育むため、本学習ではこれまで何度か扱ってきた人権について取り上げ、自他の人権を守る・大切にすることは勿論、そのためにどんなことを成すべきか、資料中の言葉を参考に自ら考えさせることにより、今後さらによりよい社会（学級・学校）を実現しようとする意欲や態度を育んでいきたいと考える。

（3）資料について

本資料は福島原発事故により、ふる里（大熊町）を離れ避難を余儀なくされた作者（蓬田怜奈さん：新潟県中学3年生）が事故後に起きた様々な辛い体験をもとに、人権について作者自身が考えたことやたくさんの人達に聞いて欲しい、知って欲しい思いや願いを文章に綴ったものである。

相手の心ない言葉や態度で大きく傷つけられた作者の「差別や偏見をなくし人権を守りたい」という強い思いや願いが込められた言葉は勿論、差別や偏見をなくすにはどうすればよいか、また、どうすれば人権が守られるのか、作者自身が改めて考え直したことや様々な気づきなどももとにしながら、人権について改めて考えさせたい。また、人権を守るために自分自身で何ができるのか、何を成すべきなのかについても考えさせ、人権を守る・大切にしようとする意欲や態度を育んでいきたい。


4 本時について




（1）日 時 2014年 8月29日（金） 5校時

（2）場 所 5学年教室

（3）ねらい 公正・公平の大切さを自覚し、だれに対しても差別する心や偏見を持つことなく、よりよい社会の実現（人権を守る・大切にすること）に努めようとする心情や態度を育てる。

（4）展 開

課程	学習活動と主な発問	学習の様子を見取る視点	指導上の工夫・留意点
導 入 5 分	<p>①一枚の写真（原発事故により避難している方々の写真）を提示し、どんな写真か考える。</p> <p>「この写真はどんな場面を撮影したものだろう」</p> <p>・東日本大震災 （2011年3月11日） ・東北地方（福島・宮城・岩手） ・震災・原発事故により避難された方々</p>	 <p>(河北新報報道写真より)</p>	<p>・写真①</p> <p>◇いつ、どこで、だれが何をしている写真か考え、確認する。</p> <p>・数名に発表してもらう</p>
展 開	<p>②避難を余儀なくされた中学生の体験（読み物資料から）を知り、そこから問題点（差別・偏見・人権侵害）に気付く。</p> <p>「資料を読み、どんな問題が蓬田さんの身の回りに起きたのか知ろう。」</p> <p>③蓬田さんの心情を考える。</p> <p>「こうした体験をした蓬田さんの気持ちを想像してみよう。」</p> <p>・つらい ・悲しい ・大変だ ・苦しい</p> <p>④自分の立場に置きかえ考える。「自分の身の回りでも、蓬田さんが体験（差別・偏見・人権侵害）したことと同じことが起きたらどう思いますか。」</p> <p>・つらい ・悲しい ・大変だ ・苦しい</p> <p>⑤本時の学習のねらいを知る。</p> <p>人権を守る・大切にするために、わたしができることは何か考えてみよう</p>		<p>☆学習ノート（前半） （読み物資料）</p> <p>◇資料内容を確認し、いじめや差別により、多くの方が傷つけられたことを確認する。</p> <p>◇どうしてそう思ったのか理由も考えさせたい</p> <p>・数名に発表してもらう</p> <p>◇どうしてそう思ったのか理由も考えさせたい</p> <p>・数名に発表してもらう</p> <p>◇いじめや差別により、多くの人権が守られていない、大切にされてい</p>

<p>35分</p>	<p>⑥人権を守る・大切にすることができることを知る。 「資料の続きを読み、蓬田さんの考えからできることを探ってみよう。」</p> <p>⑦人権を守る、大切にするために自分なりの考えや取り組みを考える。 「人権を守る・大切にするために自分に何ができるか、何を成すすべきか、考えてみよう。」</p>	<p>⑧自らの考えや実践内容を記した言葉から、道徳的価値（公正・公平）の深化が図られ、道徳的な実践意欲（人権を守りよりよい社会を実現する）の向上が図られたかをみる。 (学習ノートへの記述)</p>	<p>ないことを再確認する。</p> <p>☆学習ノート（後半） (読み物資料) ◇人権を守る・大切にする方法（得る・知る・持つ）に気づかせたい。</p> <p>☆学習ノート ◇蓬田さんの体験や考えを参考にしながら、何を知り・学び、今後どう実践していくかという点を意識させ、自分なりの考えをまとめさせたい。 ・数名に発表してもらおう</p>
<p>終末5分</p>			<p>・写真②</p> 
<p>(河北新報報道写真より)</p>			

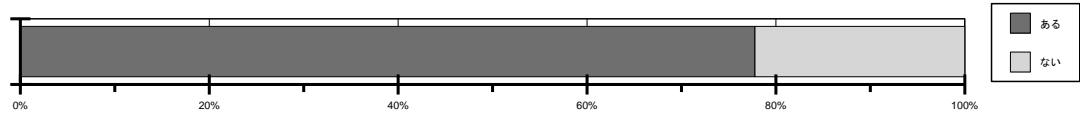
(5) 本時の評価

- ・だれに対しても差別する心や偏見を持つことなく、公正・公平の大切さを自覚することができたか。
- ・よりよい社会の実現（人権を守る・大切にすること）に努めようとする心情や態度を育むことができたか。
(授業中の発言内容・学習ノート)

5 学習内容に関する事前アンケート（9人）

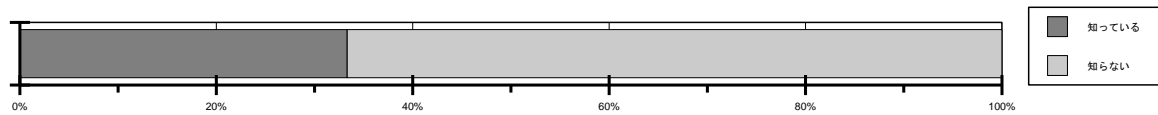
①人権という言葉聞いたことがありますか。

ある	7人
ない	2人



②人権とは何か知っていますか。知っている場合は に内容を書いてください。

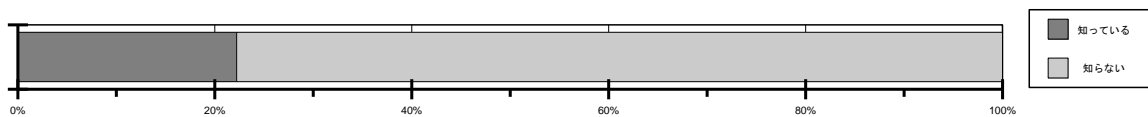
知っている	3人
知らない	6人



・人間が持っている権利（1） ・子どもの権利条約（1）
 ・人として守らなければいけないこと、ルール（2） （複数回答）

③人権を守る・大切にするための方法を知っていますか。知っている場合は に内容を書いてください。

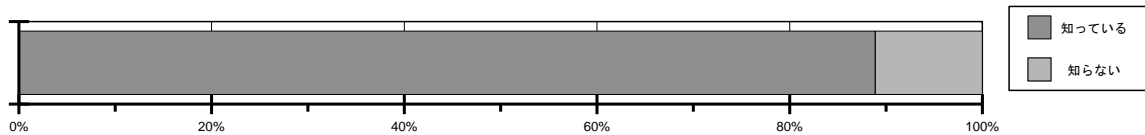
知っている	2人
知らない	7人



・いじめをしない（1） ・思いやりの心を持つ（2） （複数回答）

④東日本大震災を知っていますか。知っている場合は に内容を書いてください。

知っている	8人
知らない	1人



- | | | |
|------------|------------|-----------------|
| • 大地震（8） | • 大津波（8） | • 東北地方（福島・岩手：2） |
| • 3月11日（2） | • 多数被害者（1） | • 原発事故（1）（複数回答） |

6 成果と課題

(1) 児童の意見

- 人権を守るためには、いじめや差別を無くせばよいと思う。わたしはたまに友達に悪口を言ってしまうことがあったので、これから友達や相手の気持ちや立場を思いやりながら話しをしていきたい。
- 人権を守る・大切にすることについて今が、人権を守るために、相手の気持ちや立場を思いやり、仲のいいクラスをつかっていきたいです。これからは友達や相手の気持ちを大切にしていきたいです。先生の本を読んで自ら取り組んでみたいことがあります。先生が「強い心を持つ」ということです。強い心を持つといじめや差別を無くし、仲のいいクラスをつかっていきたいです。
- 友達に対して優しくしたいと思います。また、悲しい思いをしている人がいたら、声をかけ励ましたいと思います。
- 大和小学校の5年教室に蓬田さんのような人が来たら、差別をしないでやさしく接したいと思います。



(2) 授業者の反省

- 蓬田さんの実体験をもとにしながら授業を進めたが、どのような差別や偏見が実際に起こり、どれだけ傷つき傷つけられたのか資料から具体的に知ることができ、人権について一人ひとりが真剣に考えることができた。
- 多くの児童が、授業を通じて学んだことを今後の学校生活や社会の中で生かして

いこう、実践していこうとする態度（意欲）に繋がられることができた。

- 蓬田さんの思いや考えをもとにしながら、人権を守る・大切にするために自分自身が何を成すべきか、逆に何をしてはいけないのか考える機会となった。
- 授業を展開する上で、大震災や原発事故等について事前学習（1時間程）を行ったが、扱う内容が多く難解な言葉も多かったため、児童の理解度に大きな個人差が生じてしまった。
- 今回の授業では蓬田さんの思いや言葉から本時のねらいにせまったが、児童の自由な考えや思いを生かした授業展開も工夫する必要があった。

（3）研究協議から

- 人権や差別、偏見といった言葉の意味を事前に捉えておいたことが良かった。
- 終末で提示した写真（3枚）には、5年生と同じ子どもの姿もあり身近な問題として捉えることができた。
- 今回の授業を通して児童が考えたことが、今後の道徳的实践力を高める上でよかったと思う。
- 児童から多くの考えや意見が出されよかった。
- 共感的に授業を進められていてよかった。

- 児童の実態として、いじめや差別をなどを受けていない状態での授業だったので、果たして自分の身にしっかりと受けとめられていたかどうか疑問がある。他の題材でもよかったのではないか。
- 今回の授業では差別や偏見を受けた側からその時の心情を考えさせたが、差別をする側だったらどうすべきか、再質問するとさらに内容が深まったと思う。
- 本時のねらいについては、主発問にあたるのでそれを前面に出さない方がよかったと思う。
- 終末の写真を提示した後で、全体で考えさせる場面があってもよかったのではないか。人の持っている優しさ・思いやり、ボランティアに対する意識についてさらに広がりが見られたのではないか。

（4）まとめ

学級や児童の実態を踏まえ、だれに対しても差別する心や偏見を持つことなく、公正・公平の大切さを自覚すること、また、よりよい社会の実現（人権を守る・大切にすること）に努めようとする心情や態度を育むことをねらいとして本学習を行った。児童がまとめた文章を読むとこうした心情や態度を育むことができたのではないかと感じる。

授業後の学校生活を振り返ると、学級内の課題が少しずつではあるが改善されてきており、自らの手でクラスや学校をよくしていこうとする自覚が、多くの児童の心の中で育ってきていると感じる。また、こうした自覚を持つだけでなく様々な活動の中で、具体的な取り組みを考え自ら行動できるようになった児童が増えてきている。一方でまだ

まだ自分勝手な言動をとり、相手を傷つけてしまう場面もあり個人差がある。こうした態度や意欲を高めるため、さらによりよい人間関係や学級、社会を実現していくために道徳は勿論、様々な教育活動の中で継続して指導を行っていくことの重要性を感じる。また、必要に応じて全体指導だけでなく個別に対応していくことも考えていきたい。

今回の授業では、人権問題について原発事故・避難から生じた事例をもとに一人ひとりに考えてもらったが、別の側面（いじめ・国籍・経済格差・戦争等）からも人権について考える機会を設けていきたい。より安全で安心して暮らす、また、健康で幸せに暮らすことができるようにするために、こうした学習を通じて自分自身で何を成すべきか新たに探っていきたいと思う。

（前半）

《道徳学習ノート》

五年 名前（ ）

「聞いてくたさい、私の思い」

大熊町。緑の木々と青い海に囲まれた自然豊かな私のふる里です。そして、あの原発事故が起きた町。私のふる里は一瞬（いっしゅん）にして「死の町」とまで言われるだれもがきらい、イヤがる町になりました。それまで私にとっての「人権」とは人間が生まれながらに持っている権利と学校の授業で習った程度で、特に気にもせず考えもしないただ聞いたことのある言葉でしかありませんでした。

しかし、避難してからは、同じ福島県内でありながら、耳に入ってくる話は「福島ナンバーの車がいたすらされた」「転校していった子が放射能（ほうしゃのう）のことでいじめられた」などの悲しい話ばかり。私はこの話を聞くたびに「またか・・・」と自分のふる里がだんだんといやがられている事がとても悲しく思っていました。

そんな中、わたしも一つの体験をしました。部活の大会の日のことです。「うわ、なんているの。放射能がうつる。帰れよ。」すれ違いざまに他校の生徒（せいと）に言われた言葉です。私はこの言葉を言われた時なごたくなり、大会すらやる気がなくなりました。何気なく言った言葉だったのかもしれないが、大熊町に住んでいた私にとっては非常（ひじょう）にくやくしく悲しいものでした。家に帰り、その出来事（できごと）を母に話すと、母は別の話もしてくれました。ある小児科（しょうにか）では、受診（じゆしん）してくる地域の子とも達を守るため大熊の人は診察（しんさつ）しない。ある保育所では、やはりあずかっている子どもを守るために、近くに大熊の人の車を駐車（ちゆうしゃ）させないという内容でした。



(後半)

自分の「人権」を守るためなら相手の「人権」は傷つけてもかまわないのでしようか。私はまちがった情報が、そういうまちがった守りを生む、原発事故について、しっかり学び正しい知識を得ることが差別をなくすのだと気がきました。差別をしている側からすれば、冗談(じょうだん)だという人も多いです。たとえ冗談だとしても心ない言葉の一つ一つが相手をどれだけ傷つけるのか気付いてほしいものです。実際に差別されている側はみんなの想像よりもはるかに傷ついているということ、つらいということ、そして悲しいということを私は、この人権作文を通してたくさんの人に知ってほしいです。

(中略)

そして、私自身も差別や偏見(へんけん)、いじめがなくなるように強い心を持って、まずは自分から立ち向かっていきたいです。

《蓬田(よもぎた)れいな作 みんなの人権「第三十二回

中学生人権作文コンテスト」優秀賞作品による》

◇蓬田さんの考えや思いも参考にしながら、人権を守る・大切にするために**学んだ事**や今後の生活(学級・学校・社会)の中で、**自ら取り組んでみたいこと**をまとめてみよう。
